人との関わりを大切にした音楽科の学習

ー自分で決める場を大切にしてー

川　口　万　里

1．音楽科における自立とは

「自立」をめざして生き生きと活動する子どもたちの姿が見えてくる音楽科の学習をめざして，次のように具体的な子ども像を設定した。

① 見通しを持って学習に取り組む子ども。

② 他との関わりの中で，課題を見つけ，意欲的に取り組む子ども。

音楽表現をみんなで作り上げていく過程では，「他との関わり」の中で，より豊かな表現を求めて，一人ひとりの感じ方や思いを大切にする取り組みが必要であると考える。実践にあたっては，次のような姿勢を一人ひとりの中に見ていきたい。

(ア) 今までの経験を生かして，自分の興味・関心を深める自己選択・自己決定ができる。

(イ) 周りの人と協調しながら，納得のいくまで活動に集中したり没頭したりすることができる。

(ウ) よりよいものを目指して安易に妥協せず，意志を持って追求していくことができる。

2．音楽科での授業づくり

実際の授業の場面における各学年ごとの具体的な子どもの活動を想定してみた。

	(ア) 自己選択・自己決定力	(イ) 集中力	(ウ) 意志力
低学年	音楽を感覚的にとらえてイメージを広げ、自分の思いを持つ。	友だちの表現をまねたり、取り入れたりする。	いい音を知り、それに気づく。
中学年	活動のめあてを自分の思いと合わせて持ち、友だちと話し合って取り組む。	友だちの良いところに気づき、自分たちの表現をよりよくしようとする	いい音や自分なりの表現を工夫し、励まし合ったり、教え合ったりする。
高学年	音楽を特徴づける要素に注目して表現をふりかえり、新たなめあてを持って、さらに取り組む。	自分の役割を総合的に判断したり、積極的に自分の思いを全体に反映させていったりする。	友だちや教師のアドバイスを生かしながら、よりよい表現を追求していく。

3．実践例

本年度は、高学年（第6学年）において (ア)自己選択・自己決定力 に焦点をあてて、取り組んでみた。

題材名 「楽器を選んで（風を切って）」

題材のねらい

受け持つパートや楽器を選択する場において、友だちとの関わりの中で自分にあった楽器を選び、主体的に表現の工夫をしようとする態度を育てることをねらっている。

指導目標

1　全体の響きを考えながら自分の受け持つパートと楽器を選び、意欲的に合奏に取り組むことができるようにする。

2　曲の持つイメージに基づいて、自分なりに楽器の奏法や表現方法を工夫することができるようにする。

3　楽器の音色や音の響き合い、強弱のバランスに気をつけて表現できるようにする。

4　いろいろなふしの重なりや楽器の音色の響き合いを味わって聴くことができるようにする。

指導内容と計画……8時間

第1次　曲のイメージをつかんで主旋律をリコーダーで演奏する……2時間

第2次　各パートの特徴をつかみ、自分の受け持つパートや楽器を選択する……2時間

第3次　個人練習、パート練習、全体練習をして、合奏を仕上げる……4時間

授業設計の焦点

見通しを持って意欲的に活動に取り組むために、今日の学習の流れを全体で確認し、各自が考えた活動のめあてをカードに記入する。互いに教え合ったり励まし合ったりしながら楽しく合わせていくことができるよう支援していきたい。

仮説	自分でめあてを決め、見通しを持って活動に取り組む場を設定するならば、意欲的に合奏活動に取り組むことができるであろう。

授業づくりのポイント

◎めあて・課題カードの活用（毎時間の記録）

→子ども……全体の活動の見通しを持ち、個人の活動のめあてを持つ。

教師……みんなで「合わせる」ということに常に意識を向けながら、一人ひとりの達成度や課題をつかみ、支援に生かす

音楽づくりのポイント

◎今までの経験をもとに楽器（担当するパート）を選ぶ。

→子ども……自分でやりたい楽器（担当するパート）を選ぶ。

教師……バランスのとれた編成に気づいていくよう支援する。

・個人練習やパート練習の時間を保障する。

・よりよい合奏になるよう個人の思いをアドバイスとして出し合う。

子ども→子ども　　教師　→子ども

・一人ひとりの思いを形成するイメージづくり

→「風を切って」が作られるきっかけとなった物語を知る。(映画を見る。)

主旋律をリコーダーで演奏できるようにし、共通のイメージを持つ。

学習の流れ

(1)　第1次　曲のイメージをつかんで主旋律をリコーダーで演奏する……2時間

この導入の部分は、学習課題の曲をよく聴いて「どんな合奏にしたいか」というイメージを各自持ち、これからの活動に不可欠な基本を学ぶ場としていきたいと考えた。

第一次の第1時～第2時　『「風を切って」の曲について知ろう』

授業では、範唱を聴いて歌を歌ったり、「植村直巳物語」という映画を編集したもの（10分程度）を視聴して、主人公の功績を知ったり、氷の世界を犬ぞりにのって孤独に冒険する気持ちを想像してみたりした。

次に、主旋律をリコーダーで演奏することに取り組んだ。1)リコーダーの奏法（サミング、#の指使い）2)くりかえし記号の読み方を学習した。

「風を切って」には、①のふし（主旋律）と②のふし（副旋律）がある。①のふしは、ゆっくりでも全員が吹けるようになるまでがんばろうと課題を与えた。自信がついたら、②のふしも練習し、二重奏にチャレンジしてみるように声かけをした。

(2) 第2次　各パートの特徴をつかみ、自分の受け持つパートや楽器を選択する……2時間

いよいよ合奏活動に入っていく。グループの分かれ方、使用する楽器や人数の枠があらかじめ教師側から限定して提示されていれば、たぶんもめることもなくスムーズに分担され、活動が進んでいったことだろう。あえてそれをしなかったのは、前述した「(ア)今までの経験を生かして、自分の興味・関心を深める自己選択・自己決定ができる。」力が本校の最高学年である6年生にどのくらい身に付いているだろうか、つかみたかったからである。

合奏活動は、分担作業ではなく、一人ひとりの良さを集結させ、個性のぶつかり合いを経て、一つにまとまっていく共同創作活動であると考えている。楽器選びは、合奏活動においては子どもの今後の活動意欲を大きく左右する要因の一つである。「自分の好きな楽器をやりたい」という究極の願いをできるだけ叶えていくことこそが、子どもの能力を引き出し育てていくことにつながる。また、集団内の人間関係が、高学年ほど合奏活動に影響を及ぼすということを、私はクラブ活動（ブラスバンド）の経験などから長年感じてきている。子どもたちの学習過程で大切なのは、スムーズに事を運ぶことではなく、一人ひとりの意見の相違を知り、「どうすればよいのか」を自分たちで決めていくことである。

第二次の第1時　『自分の受け持つパートを選ぼう』

「まず、パート（楽譜）を選ぼう。」→難易度の違う3種類のパート譜から、一つ選ぶ。

「その楽譜を演奏する楽器を選ぼう。」→教室内の楽器、個人持ちの楽器から選択

パート	提示した選択肢（選択した楽器）
主旋律 副旋律	リコーダー、鍵盤ハーモニカ、ソプラノアコーディオン、グロッケン、フルート、クラリネット、　など
和音	アルトアコーディオン、テナーアコーディオン、シンセサイザー、木琴、鉄琴、ギター（ピアノ）　など
低音	バスアコーディオン、シンセサイザー、バスキー、ベースギター、（ピアノ）　など
リズム	ドラムス、小太鼓、大太鼓、シンバル、タンブリン、シェイカー、ツリーチャイム、スレイベル、鈴　など
ピアノ伴奏	ピアノ

第二次の第2時　『パートやグループを決定しよう』

「他の人が選んだ状況や、全体のバランスを考えて自分の選択を見直そう。」

→人数の偏りや個性を考えて、決定する。

各自が選択した理由のアンケートは、次のような結果になった。

【パートをえらんだ理由】（複数回答）

・このパートを選ぶとやりたい楽器ができるから……9人
・このパートに挑戦してみたいから……12人
・簡単そうだから……8人
・何となくやってみたいから……9人
・自分に合っていると思うから……8人
・その他……3人
［主なパートで最重要だから／楽しそうだから／②のふしが少なかったから］

パートを選んだ時点で、個人の意欲の差がすでにあらわれてきた。何をやってもどうでもいい、という雰囲気を醸し出している数人の子どもは、音楽に対して強い苦手意識を持っている子どもたちだ。そこで、「自分の得意な楽器をよりがんばる」「いろいろな楽器に挑戦したい」の2タイプを挙げ、自分自身を見つめ直しもう一度選択を考える場を設定していった。

♪楽器を選んで　『風を奏でて』　6年2組氏名

（1）これからの活動でやってみたいこと、または、どんな合奏にしていきたいかなど自分の思いを書きとめましょう。

色々ながっきを使った曲
みんなで楽しく演奏したい。

（2）あなたは、どのパートに取り組むことにしますか？

パート名	自分の選んだパートに○
①のふし（主旋律）	
②のふし（副旋律）	
和音のふし	
低音のふし	○
リズム	

それにした理由を選んで○を書きましょう

（　）このパートを選ぶとやりたい楽器ができるから
（○）このパートに挑戦してみたいから
（　）かんたんそうだから
（　）何となくやってみたいから
（　）自分に合っていると思うから
（　）その他
［　　］

次に、【どんな合奏にしていきたいか】各自の思いを発表した。

音楽的な内容にかかわるもの　（○代表的なもの）
○たくさんの楽器が一つになってきこえる合奏○いろいろなふしのある響きのある合奏・愉快な・気持ちのいい・人の心に届くような・楽しめる・きれいにハモる・二つの音が合う・全てのパートがうまくいった・一つ一つの楽器の音色が聞こえるように・やさしく強く響き合う・きれいな音の・きれいで響きのある・調和、旋律、タイミングのある合奏・みんなが聴きたくなるような・あざやかな
態度・意欲にかかわるもの
○男女関係なくみんなで楽しめる・本気で・協力して・楽しい・おもしろい・心を込めた・達成感のある・思い出の一つとなるような・みんなの心が一つになれる・一つのことに集中して・よいものにしていきたい・今までに失敗したことをやりたい・みんなでやる・息のあった
その他
○自分の得意なことを最大限に発揮する・発表会などで楽器をたくさん使えるように幅を広げ、視野と世界を広くする・「風になりたい」では打楽器が多かったので、楽器の分け方も考えたい

話し合った結果、グループに分かれずクラスで一つの合奏に取り組むこととなった。

(3)　第3次　個人練習、パート練習、全体練習をして、合奏を仕上げる……4時間

演奏を録音してふりかえりながら、一人ひとりが具体的なめあてと課題を毎時間カードに記入し、練習に取り組んでいった。自信がついてきた頃、次の時間にやってくる4年生のクラスに早めに来室をお願いし、仕上げの演奏を聴いてもらい、感想の交流をした。いつもより緊張して締めくくりにふさわしい演奏ができたようである。めあて・課題カードの中の達成度「よくできた」の欄に、［全体］はほぼ全員が、［個人］では8割程度がしるしをつけていた。

4．今後の課題

(1) 授業づくり

◎ めあて・課題カードが活用できたか。

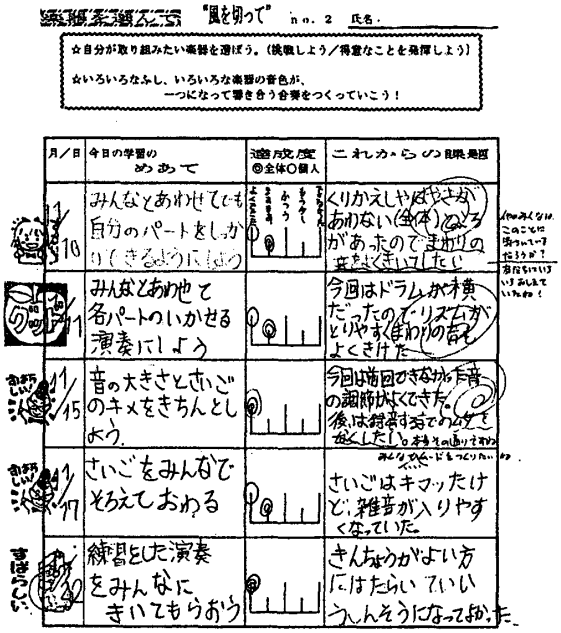
大まかに、カードの記述を分類してみた。

・音楽に関わる具体的な観点の記述……14人

・技術の取得にこだわった記述（ミスをなくす等）……12人

・態度や意欲面の観点での記述……11人

カードの記述を紹介したり、教え合って練習するよう支援を行ったりしたが、いざ活動となると個人練習に終始し、友だちと関わる姿が、あまり見られなかった。カードに記述することによって個人の意識は高まったが、お互いを高め合う場に生かすことが十分にできなかった。



(2) 音楽づくり

◎ 今までの経験をもとに楽器を選び、全体のイメージに合う音楽づくりができたか。

※ コミュニケーション形成（他とのかかわり）の場を工夫して設定していく必要性

当初の学習計画では、各自が自分のできるようになりたいパートや楽器を選び（活動の個人レベルのめあてを持ち）、クラス全体でそれを出し合い、個人の思いが生かされるようなグループ編成を行って（集団レベルのめあてを形成しながら）活動を進める、としていた。しかし、子どもたちの話し合いや活動の様子から軌道修正が必要になり、支援の仕方に悩んだ。

集団の中での自己実現を子どもたちはあまり意識しようとせず、人は人、自分は自分という集団の図式をくずすことができなかった。

ドラムスの担当になった児童は、個人でもレッスンを受けており、かなり腕前に自信を持っていたのでリーダー的存在になると予想された。周りに主旋律の担当のメンバーが集まってきて自主的に合奏練習する様子が見られ、生き生きと大変楽しそうに活動していた。その集団は日頃の仲良しグループではあるが、そこを中心に全体に合奏の輪が広まっていくのではないかと期待した。しかし、教師の支援なしには、全体で「合わす」練習が行われるに至ることはなかった。また、自己選択の場において、全体の中における自分の位置付けを客観的に判断することができず、「何もしたくない。」「自分一人が何もしなくても誰にも迷惑がかからない」と言い張る児童がいた。音楽に苦手意識を持ったまま6年生になってしまった子どもたちの意欲をかき立てることができるものは何であろうか。

全体的には、みんなで力を合わせて一つの音楽づくりを考えていく場の中で、徐々に自分の思いを出してそれが全体に反映していくことのおもしろさに気づいたり、友だちの工夫や考えを知ってさらに自分の表現を練っていったりする姿が見られるようになってきた。このような学習過程を大切にし、「他とのかかわり」の中で築き上げていく音楽づくりを今後もめざしていきたい。

【引用・参考文献】

吉田　孝、八木　正一　共著「音楽の授業―総合的な学習をどうつくるか」1998年5月10日学事出版

高橋　超「教育目標としての自立」平成9年3月24日東雲小研修資料より